

6月6日は補聴器の日

福岡市を拠点に活動する難聴の子を持つ家族会「そらいろ」のご紹介

福岡市を拠点に活動を行う難聴の子を持つ家族会そらいろ（福岡市、代表：岩尾至和、以下「そらいろ」）は、「わからないことが多いと言われている難聴児の子育て」をめぐる課題解決に向けて活動しております。6月6日の補聴器の日（※1）に際し、当家族会の理解促進活動の一環として、直近の活動内容をお知らせいたします。定例会の実施など継続的なコミュニティの構築によって、難聴の子どもやその家族が、正確で具体的な情報を得ることができ、さらに知見を集約していくことを目指してまいります。

【本件のポイント】

- 6月6日の補聴器の日に寄せて、難聴の子を持つ家族会そらいろのご紹介
- そらいろの活動は「学び」「娯楽」、行政への要望活動を含む「サポート」の3軸で展開。今年4月には福岡市初となる難聴特化の民間児童発達支援施設の開所を実現。

そらいろは「難聴の子どもが、社会でうまくコミュニケーションをとれるように、また、難聴の子どもがいる家族が、不安を取り除いて、安心して温かい家族関係を作れるように」を目的に掲げ、定例会を中心とした活動を展開してまいりました。2017年12月に創設し現在は未就学時を中心に28家族・1専門団体が参加しておりますが、今後は就職までを見据えた長いスパンでのサポートを考えております。

そらいろは、難聴を理解する「学び」、難聴児が楽しめるような「娯楽」、難聴児が過ごしやすい環境づくりを目指す「サポート」の3軸で活動を展開しております。行政への要望活動を含む「サポート」においては、県や市に働きかけ、福岡市で初となる難聴特化の民間児童発達支援施設の開所（2019年4月）に力添えしました。同じく本年度より福岡市でも「新生児スクリーニング検査」が全額補助されるようになるなど（※2）、子どもの将来にわたって大きな影響を及ぼす聴覚障害の早期発見、早期療育は全国的にも広がりを見せています。

そのような状況を踏まえ、そらいろでは定例会を中心として、加配制度や就学相談の改善、難聴理解を広げる活動、難聴の障がい者認定基準の見直しなどの活動を行っております。次回定例会（※3）は「支援学校・普通校を選んだそれぞれの家族から見る難聴児の子育て」をテーマとし、高校生の難聴児を持つ先輩保護者2家族から様々なお話をお聞かせいただき、家族に寄り添った内容となっております。

当家族会は今後も定例会などを通じて、難聴児の子育てをしやすい環境づくりや難聴理解を広げる活動を展開してまいります。

（※1）1999年に一般社団法人補聴器工業会並びに一般社団法人日本補聴器販売店協会が制定した記念日で、6の形を向かい合わせにすると耳の形に見えることが由来

（※2）福岡市ホームページより（<http://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/67786/1/HPTirasi.pdf?20190329182515>）

（※3）2019年6月23日（日）の13:30～15:30、福岡市立心身障がい福祉センター（あいあいセンター）にて実施予定

【本件に関するお問い合わせ先】

難聴の子を持つ家族会 そらいろ <https://sorairofukuoka.jimdo.com/>
担当：岩尾（いわお） e-mail：yukikazu_iw203@blue.plala.or.jp